

西南女学院短大 ○戸田卯子 奈良女大家政 樋泉俣子 中川早苗

【目的】様々なデザインが存在する現在、人々は自分にふさわしいと思う衣服を多くの中から選択できる。ところが日常人々が着用する衣服をみると、個人レベルではある一定の着用パターンがあるのではないかと思われる。そこで本研究では女子学生の下衣のシルエットに焦点をあて、その着用パターンを明らかにするとともに、よく着用する下衣と服装に対する意識、身体に対する評価、性役割意識などとの関連について考察を試みた。

【方法】近畿圏・九州圏の女子短大・女子大学に在学する学生 730名を対象に1992年12月配票留置法による質問紙調査を行った。有効回収数 689票、回収率94.4%であった。主な質問項目は、よく着用する下衣のシルエット、好きな服装のイメージ、服装観、身体に対する評価などである。データの集計・分析には、単純・クロス集計、因子分析を用いた。

【結果】女子学生が日常よく着用する下衣のシルエットを順位で答えてもらった結果、第1位はパンツ(39.3%)、タイトスカート(18.4%)、フレアースカート(17.2%)であった。クロス集計によりこれらグループと好きな服装のイメージ、服装観、身体に対する評価との関連を分析した結果、多くの項目で有意差がみられた。さらに好きな服装のイメージについて因子分析を行った結果、「目立ち」「活動性」の2因子が抽出され、これらに各グループの因子得点をプロットしたところグループごとの特徴を明らかにすることができた。